

論 文

化学療法中の悪心・嘔吐に影響を及ぼす要因の検討

—特に不安要因の経日的な推移について—

村田 裕美*・鶴見 リカ*・南出 弘美*・由雄 恵子**

* (金沢大学医学部附属病院)

** (金沢大学医療技術短期大学部)

Factors affecting nausea and vomiting in patients
with hematologic malignancy receiving chemotherapy

— Studies on daily changes of anxiety —

Hiromi Murata, Rika Tsurumi, Hiromi Minamide and Keiko Yoshio
Kanazawa University Hospital, Department of Nursing
School of Allied Medical Professions Kanazawa University

要 旨

悪性血液疾患患者の化学療法中の予測性嘔吐に影響を及ぼす要因について、特に不安要因の経日的な推移を明らかにした。研究方法は、19名の悪性血液疾患患者を対象とし、悪心・嘔吐の有無に対する年齢、抗癌剤の種類及びSTAIで測定した不安の影響を経日的に統計的分析した。さらに1事例の不安の内容を分析し、以下の結論を得た。

- 1) 悪心・嘔吐の有無に対する年齢、抗癌剤の種類、状態不安及び特性不安の影響は、経日的に異なっていた。
- 2) 化学療法中3日間とも、状態不安が低く特性不安が高い人ほど、悪心・嘔吐がみられた。
- 3) 悪心・嘔吐の有無に影響する不安として、予後を悲観すること、家族や仕事への心配などの性格から生じる生活全体に対する不安が影響している可能性がある。